

行慶寺報

平成十五年秋号

ご供養の細密画 白蓮

「わたくし、こんな絵を描いたのよ」と、ご法事の日にきれいな絵はがきをお檀家の田村路子様が見せて下さいました。

そこには清楚な白い蓮の花があり、根や縦に割った蕾も細密に描かれていました。「賞も頂き気に入って、たくさん印刷したのヨ。でも絵柄が不祝儀風なので...」とのことでしたが、あまりに素敵でしたので百枚を譲って頂きました。カトリアなどの花のカードも同封されていましたのでここに

紹介させて頂きます。白蓮の作品について田村様よりお手紙も頂きましたのであわせてご紹介致します。

「私はお花が好きで絵をかくことが好きで植物画(ポタニカルアート)の勉強を始めて今年で丸十二年になります。

昨年二月に義妹が亡くなりまして、初盆の七月、古くからある我が家の姫水蓮が次々と花をつけ続け、義妹からのメッセージの様



絵はがきをご希望の方はお申し出下さい



な気がして描いたのがこの絵です。

この絵は、昨秋「創芸教育社」主催の全国コンクールに応募して、植物画優秀賞を頂き、思い出深い一枚になりました。

ポタニカルアートは図鑑の絵なので、細密に正確に植物のことも勉強して描かなければなりません。それを自分の絵にすることが難しく、また楽しみでもありません。」

これからもすてきな作品を！

半年を振り返り見て

副住職 前田 崇史

四月から学校も卒業して、お寺を中心とした生活を送っています。今年のお盆ではお棚経でお伺いするお家の数も少し増えました。今後もお檀家の方と身近に話ができる機会である棚経を続けていければと考えています。

さて、おかげ様で二人の息子も六ヶ月になり、日々その成長に一喜一憂しております。

ひとくちメモ

年回や行事で本堂にお参りするとき、輪袈裟を着用しましょう。輪袈裟は貴家に記念品として一本ずつ差し上げてあります。ご入用の方はお申し出下さい。



台掌

朝、二人乗りのバギーで散歩をしており、すれ違う街の方々の多くが笑顔で声を掛けてくださいます。改めて、赤ちゃん周りの人に与える一時の幸福を日々感じています。とりわけ、お檀家や信徒の皆様が二人に暖かい眼差しを向け、接して下さる姿を見て、大きな感謝の気持ち湧きますと共に、自身のおかれた立場を深く自覚させられるのであります。二人の幼い息子と共々に成長していきたいと思っております。



旅立ちの法然さま



お十夜法要に開眼供養

お寺の前庭に新しく「旅立ちの法然さま」のブロンズ像が建立され、十月十七日の十夜会法要にあわせて「開眼供養」が行われることになりました。

浄土宗を開かれた宗祖法然上人は長承二年（一一三三）美作国（今の岡山県）稲岡庄に生まれました。勢至丸と名付けられ、健やかに成長していきましたが、九歳の時、夜討ちに会い父親を失いました。

父・漆間時国は臨終に際して、「仏道を歩み、安らぎの世を求めよ。」と遺言しました。勢至丸は母の弟である菩提寺の住職、観覚得業上人のもとに引き取られることになりました。

観覚上人は勢至丸の偉才を認めて一日も早く比叡山に登って延暦寺で修行するように勧めました。やがて登叡を決心した勢至丸は久安三年（一一四七）の春、母に別れを告げるために稲岡の里へ帰って来ました。

母に自分の決意を告げ、母を慰め比叡山へと旅立ったのは勢至丸十五歳の時でした。

この「旅立ちの法然上人」像は住職が卒園しました聖美幼稚園（西品川）の閉園にともない内山正憲園長先生より寄贈を受けたもので、お檀家の馬野光晴様に台座のご寄付を頂きました。

厚く御礼申し上げます。 合掌

本堂でライブ

「ね」をご存知ですか。以前ルンビニ幼稚園に勤務されていた藤ノ木みかさんの演奏グループで有名なジャズドラマーの古澤良治郎さんがリーダーです。「ね」は根であり音である」という古澤氏の言葉に表されるように、素朴で、親しみやすい音楽です。ここ数年魂まつり』の夜に、本堂で演奏して下さいます。本堂に響く力強いリズムが魂を揺さぶります。



これからの行事予定

平成十五年

十月十七日(金)

十夜会法要

十一月月上旬

品川区文化財公開

十一月六日(土)

成道会の集い

成道会：お悟りを開かれた日

年末の墓掃除と墓参り

平成十六年

年始の参詣

二月十五日(日)

涅槃会の集い

涅槃会：お亡くなりになった日

三月二十日(土)

春季彼岸会 中日法要

五月一日(土)

施餓鬼会大法要

皆様お揃いでご参詣下さい

